

平成 21 年度再評価対象事業一覧表 (再評価実施後、一定期間(5~10年)が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)  
 (対象：平成 16 年度再評価実施事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト縮減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課案)
21	再評価 時点 H16	中通川 統合河川整備事業  事業主体：県 事業地：多久市	河道拡幅などの整備や障害構造物(橋梁、堰等)の改築により洪水時の流れを改善し、流域の浸水被害の軽減を図る。  (採択要件) 洪水被害防止区域に存する家屋数が50戸以上	全体事業費：18億円 改修延長：680m 工期：H7~H21 計画流量：95m <sup>3</sup> /s 計画治水安全度 <sup>特記</sup> ：1/30 事業内容：掘削・築堤 護岸 JR橋 1基 橋梁 4基 堰 1基	工事は、中通川支川山犬原川を行っており、中通川合流点上流からJR唐津線下流まで完成している。用地取得は、JR唐津線までの区間が完了している。それより上流部の用地は左岸側において一部買収済である。橋梁1基完成 堰1基完成 (H15末進捗率38.6%) (事業費ベース) (年平均進捗率4.3%)	(過去の災害実績)H2.7 浸水戸数 床下230戸 浸水面積 70ha (地域の状況) 流域内では多久市において土地区画整理事業が行われており、河川事業も一体となって事業進捗を図る必要がある。また、土地区画整理事業の進捗に併せて、一層の宅地開発が進むものと思われ、今後とも治水対策が必要である。	事業採択時と比較し、費用対効果の要因の大きな変化はない。 現在(B/C) 7.1	(コスト縮減策) 護岸の裏込材や堤防天端の採石散布に再生クワッシャーを積極的に利用する。 掘削土を堤防盛土へと有効活用する。	10年以上継続	継続
	現時点 H21	中通川 総合流域防災事業  事業地：多久市		前回評価時より事業費が増額となった。  全体事業費：23.1億円 改修延長：680m 工期：H7~H26 計画流量：95m <sup>3</sup> /s 計画治水安全度：1/30 事業内容：掘削・築堤 護岸 JR橋 1基 橋梁 4基 堰 1基	工事は、中通川支川山犬原川を行っており、中通川合流点上流からJR唐津線上流(JR橋も完成)まで完成している。現在、断面が狭い橋梁を中心に改修を進めている。用地取得は、国道203号橋梁上下流部など、一部区間を除きほぼ完了している。改修L=450m完成 橋梁2基完成 堰1基完成 (H20末進捗率48.9%) (事業費ベース) (年平均進捗率3.5%)	(過去の災害実績) 同上 (地域の状況) 流域内では多久市において土地区画整理事業が行われており、河川事業も一体となって事業進捗を図る必要がある。また、土地区画整理事業の進捗に併せて、一層の宅地開発が進むものと思われ、今後とも治水対策が必要である。	最新のマニュアルに基づき、費用対効果(B/C)を算出した。  一般資産被害軽減額 公共土木施設等 B=11,112百万円 総費用額 C=2,784百万円 現在(B/C) 4.0	(コスト縮減策) 護岸の裏込材や堤防天端の採石散布に再生クワッシャーを積極的に利用する。 掘削土を堤防盛土へと有効活用する。	再評価実施後5年 が経過	平成2年等の洪水被害を軽減するために、流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し地域住民の安心・安全を確保するためには、当事業の継続が必要である。
	理由等			・鋼材単価の高騰による工事費の増。 ・JR橋改築費用の増による工事費の増。 ・国道橋、県道橋の施工方法の見直しに伴う工事費の増 ・河床掘削土の運搬距離増による処分費増。 ・多久市土地区画整理事業との調整や行財政改革等の予算縮減を受け年度事業費が減となったことによる工期延長。						

